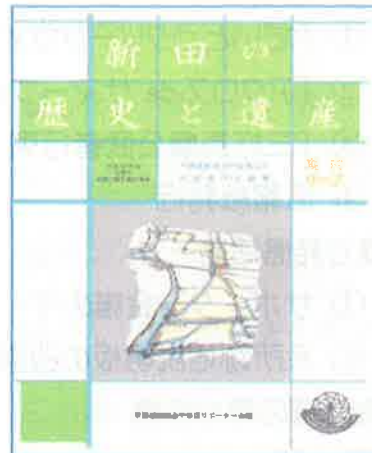


平成30年度 平野屋新田会所市民サポーター会議 活動報告書



平成31年3月31日
平野屋新田会所市民サポーター会議

もくじ

はじめに	1
I 平成 30 年度活動報告	
《1》 活動日誌	2
《2》 各部会等の活動の詳報	4
1 展示・広報活動	
① 「だいとうグリーンウオーク&環境フェア2018」に出展	
② 「アクロス de サマーフェスタ・大東博覧会」に参加	
③ 「三好長慶公武者行列 in 大東」に展示参加	
④ 広報紙発行	
2 魅力発信活動	6
① サポーター会議のマークの大判スタンプ作成	
② 会所跡地説明板の改修再設置	
3 会所跡の草刈作業	
4 懇談活動	7
① 黒田参事との懇談	
② 教育委員会生涯学習課との懇談	
《3》 四会所交流事業	
《4》 平成30年度提案公募型委託事業	8
1 水路調査活動	
① 南新田地区水路調査報告	
② 平野屋・平野屋新町地区水路調査報告	
③ 谷川地区水路調査報告	
2 水路地図作成	11
3 DVD 作成・パネル展示	
4 講座・見学会・シンポジウム	12
5 案内マップ作成	
II 資料	16
《1》 水路調査中間まとめ水路図	
《2》 明治19年切図写し水路地図	
《3》 ひらのや新田会所かわら版 3 号(平成30年 9 月発行縮刷版)	
おわりに	22
平成 30 年度 平野屋新田会所市民サポーター会議名簿	

はじめに

平野屋新田会所市民サポーター会議は、今年度初めて会所跡周辺遺産の調査と案内マップ作成などを掲げ、さらなる誇りの持てる大東市を目指して大東市提案公募型委託事業に採択されました。

平成30年度はこれまで続けてきた会所跡の草刈り作業や広報活動、大阪府内の四会所交流事業は続けながら公募型委託事業に取り組みました。大阪産業大学の松本裕先生や市史編纂委員の岡村喜史先生、滋賀県立大学の市川秀之先生にご協力をいただき、3回の講座・見学会を行い、1月にはまちづくりをも視野に入れたシンポジウムを開催しました。また、教育委員会生涯学習課参事の黒田淳さんとの懇談会と生涯学習課への要請・懇談を行い、生涯学習部田川統括次長をはじめ課の皆さまに丁寧な対応をいただきました。

そのようななか、2月の大東市文化財保護審議会で深野池新田開発関連文化財群の「平野屋新田会所千石蔵跡・道具蔵跡・船着場跡」が大東市指定史跡として答申され、3月の教育委員会で承認されました。平成20年に平野屋新田会所屋敷が解体され、平成22年に大東市がその一部を取得してから9年にして、ようやく市の文化財として保存活用に向けて動き出すことになりました。しかも今後、現存する平野屋新田会所屋敷跡だけでなく周辺の樋門や石造物をふくめた新田開発遺産群としての保存活用を視野に入れた指定であることに大きな意味を持つものとなりました。

これからの整備や活用に向けスタートラインが敷かれたことは、私たち平野屋新田会所市民サポーター会議も責任と役目が問われることをあらためて自覚するところです。

平成31年3月吉日

平野屋新田会所市民サポーター会議一同

I 平成 30 年度活動報告

《1》活動日誌

- | | |
|-------------|--|
| 4 月 14 日(土) | 平成 30 年度第 1 回サポーター定例会議 |
| 4 月 19 日(木) | 提案公募型委託事業のプレゼンテーション |
| 4 月 24 日(火) | 四会所交流事業（大東市立歴史民俗資料館） |
| 4 月 25 日(水) | 会所跡草刈り作業（天候が悪く自主活動に変更） |
| 4 月 27 日(金) | 会所跡草刈り予備日（天候が悪く早めに終了） |
| 5 月 11 日(金) | 水路調査と地図化の打ち合わせ（市役所休憩室） |
| 5 月 12 日(土) | 第 2 回定例会議 |
| 5 月 14 日(月) | 提案公募型委託事業の契約（市役所自治推進室） |
| 5 月 15 日(火) | 草刈り作業 |
| 6 月 3 日(日) | 「だいとうクリーンウオーク&環境フェア 2018」展示・広報
(大東中央公園) |
| 6 月 9 日(土) | 第 3 回定例会議・平成 30 年度総会 |
| 6 月 20 日(水) | 水路図作業（歴民第 2 会議室） |
| 6 月 26 日(火) | 平野屋水路チーム調査活動
四会所交流事業（安中新田会所） |
| 7 月 14 日(土) | 第 4 回定例会議 |
| 7 月 19 日(木) | 市川秀之先生の学習会と打ち合わせ会議（アクロス） |
| 7 月 22 日(日) | 「アクロス de サマーフェスタ・大東博覧会」展示・広報 |
| 7 月 24 日(火) | 草刈り |
| 8 月 18 日(土) | 第 5 回定例会議 |
| 8 月 21 日(火) | 水路 3 チーム代表者で水路と地図の進行状況打ち合わせ会
議（アクロス） |
| 8 月 23 日(木) | シンポジウム講師の先生方と打ち合わせ（市民会館） |
| 8 月 28 日(火) | 四会所交流事業（加賀屋新田会所） |
| 9 月 8 日(土) | 第 6 回定例会議 |
| 9 月 11 日(火) | 「かわら版」発行 |
| 9 月 18 日(火) | 水路調査第一次まとめ会議（いいもりプラザ） |
| 9 月 19 日(水) | サポーター会議と教育委員会生涯学習課黒田淳参事との懇
談会（市役所別館） |
| 9 月 21 日(金) | 草刈り作業 |
| 10 月 7 日(日) | 会所跡説明パネルと案内プレート改修再設置 |
| 10 月 9 日(火) | 四会所交流事業（鴻池新田会所） |

10 月 12 日(金)	谷川地区聞き取り活動（谷川公民館にて区長さんなど）
10 月 13 日(土)	第 7 回定例会議
	第 1 回講座・現地見学会（南新田地区、南新田公民館）
10 月 20 日(土)	シンポジウム打ち合わせ会議（いいもりプラザ）
10 月 21 日(日)	だんじり取材とインタビュー活動（元町だんじり保存会）
10 月 24 日(水)	四会所交流事業で「又」の刻字境界石出品（12/27 返却）
10 月 30 日(火)	草刈り作業
11 月 4 日(木)	平野屋地区へ第 2 回講座と見学会の広報活動（チラシ配布）
11 月 9 日(金)	草刈り作業
11 月 10 日(土)	第 8 回定例会議
11 月 18 日(日)	第 2 回講座・現地見学会（平野屋地区、平野屋公民館）
11 月 22 日(木)	安中新田会所跡旧植田家住宅見学会
12 月 8 日(土)	第 9 回定例会
12 月 9 日(日)	第 3 回講座・現地見学会（谷川地区、市民会館）
	シンポジウムパネラーと打ち合わせ（市民会館）
12 月 11 日(火)	四会所交流事業（大東市教育委員会会議室）
12 月 26 日(水)	教育委員会生涯学習課へ要請（会議室で懇談）
1 月 12 日(土)	第 10 回定例会
1 月 17 日(木)	シンポジウム打ち合わせ会議（アクロス）
1 月 26 日(土)	シンポジウム「新田遺産を活かすまちづくり」（アクロス）
	展示・広報「平野屋新田会所跡の周辺遺産」（アクロス、1/31 まで）
2 月 9 日(土)	第 11 回定例会
2 月 12 日(火)	地図打ち合わせ会議（いいもりプラザ）
2 月 13 日(水)	谷川地区聞き取り活動（谷川公民館、区長さんなど 4 名）
	産大松本裕研究室でマップ打ち合わせ
2 月 24 日(日)	提案公募型委託事業のまとめ関係の打ち合わせ会議 （いいもりプラザ）
2 月 26 日(火)	四会所交流事業（安中新田会所跡）
3 月 2 日(土)	「三好長慶公武者行列 in 大東」パネル展示（いいもりプラザ）
3 月 9 日(土)	第 12 回定例会議
3 月 12 日(火)	マップ最終仕上げ（産大にて）
3 月 18 日(月)	31 年度提案公募型委託業案作り （検討チーム・市役所休憩室）
3 月 26 日(火)	30 年度提案公募型委託事業報告会

《2》各部会等の活動の詳報

1 展示・広報活動

①「だいとうクリーンウオーク&環境フェア 2018」に出展

- ・会場:大東中央公園
- ・期日:平成 30 年 6 月 3 日
- ・概要: 今回は「大東の環境の原点—太平の世の象徴・大和川付替と深野池新田開発—」をテーマにして参加した。大和川の付替え・新田開発が大東市域の環境変化をもたらした歴史を市民と共に再認識すると同時に、会所遺跡と水路図を展示した。



パネルに見入る見学者



見学者に説明する会員

②「アクロス de サマーフェスタ・大東博覧会」に参加

- ・会場:大東市立生涯学習センターアクロス 3階 市民ギャラリー
- ・期日:平成 30 年 7 月 22 日
- ・概要: アクロス主催の行事に参加し平野屋新田会所跡と周辺の井路(水路)や樋門の様子を写真や簡単な解説のパネルで展示した。また、深野池の跡に開発された新田などがわかる大型の地図や昭和 20 年代の航空写真を展示し来場者に解説した。あわせてサポーター会議の活動の広報活動を行った。
深野池の大型地図と航空写真には特に関心を示してもらえた。

市のマスコット
「だいち」が写真に収まってい
ました



③「三好長慶公武者行列 in 大東」に展示参加

会場:いいもりぶらざグランド

期日:平成 31 年3月2日(土)

概要:飯盛城の立地と三好長慶の飯盛入城が深野池や大東市域の地理的状況と深く関係することから、深野池をキーワードにして「大東市の歴史が動いた二つの出来事」を展示することにした。「武者行列実行委員」の三好長慶関係のパネルと深野池の新田開発と平野屋会所関係のパネルを並べて展示した。初めての試みであったが、会場に彩を添えたし多くの人が足を止めて見入ってくれた。



見物者だけでなく行列参加者もみてくれました



行列参加者が展示の前で記念写真



展示のテーマパネル。
キーワードは、大和川と深野池

天候異変で深野池から西側の湿地帯が移動しやすくなった永禄三年(1560)、「時機到来と」三好長慶は飯盛城を目指しついに入城。泰平の世になった江戸時代・宝永元年(1704)、経済発展を目指し大和川を付け替え深野池の新田開発が行われた。こうして、大東の地で歴史が大きく動いた。

④広報紙第三号発行

「平野屋新田会所市民サポーター会議」が発足して3年目に発行が始まった広報紙「ひらのや新田会所かわら版」の3号を9月に発行した。(資料として、巻末(資料《1》)に「第3号」を再録しています。)

発行の目的は、これまでの広報の取組みに加えて私たちの活動とその思いや、私達と同じ思いを持っているの方たちの紹介など、写真つきでうちに帰ってからでもじっくりと読んでいただける広報紙を持つことである。今後も発行の間隔は不定期だが、年間複数回を目指している。

2 魅力発信活動

① 市民サポーター会議の大判スタンプ作成

サポーター会議のシンボルマークに加え、平野屋のロゴ入り大型(直径やく 10 センチ)のスタンプが、会員の手でできた。これから各イベント・展示などで平野屋新田会所跡の宣伝グッズとして役立てたい。

② 会所跡地説明板の改修再設置

会所跡のフェンスに掲示していた説明板の修理と再設置を行った。今回は、サポーター会議が描いた「平野屋新田会所屋敷全体想像図」を加えて 4 枚にした。米蔵や船着場石段の表示板も新しくした。



新田開発と平野屋新田会所や敷地を説明する新しいパネル



スタンプ(上)と捺した時の絵柄(下)

3 会所跡の草刈作業

会所跡地の環境保全の一つとして毎年 3~4 回の草取り作業をしている。今年度は草の成長が早いのと種類が違ってきているため、作業に手間取った。加えて草取りを予定した日の天候が悪く中止せざるを得ないなか、自主的に短時間ずつの草取りをした。そのため予定回数が増えた。

また、近年の気候によるのか徐々に雑草の根が多くなり、成長も早まり、草刈りが大変になってきている。

平成 30 年度に計画した草刈り日
5 月 15 日(火)
7 月 4 日(水)
7 月 24 日(火) 天候悪く任意で作業
9 月 21 日(金)
9 月 27 日(木)
10 月 30 日(火)



草刈り作業

4 懇談活動

今年度は、教育委員会生涯学習課と次のような懇談会を行った。

① 黒田参事を迎えての懇談

9月19日(水) 午後1時～3時過ぎ

市役所東別館2階会議室

教育委員会からは黒田参事と佐々木さん、サポーターは10名が参加。

はじめに、黒田参事から平野屋新田会所に関する経過と現状を報告していただいた。サポーターからは、保存や史跡としての指定の可能性、活用についての質問、意見がだされた。

平成 20 年に会所屋敷地が宅地開発で壊された後、時間の無い中発掘確認作業が行われ、新田開発の歴史遺産として屋敷地の一部と調査資料が残されたことは、大東市の財産となっているので、それを市民に還元するためにも市が購入した会所跡地を放置したままの現状を改善することを強く求めた。

② 生涯学習課との懇談

12月26日(水) 午前10時～12時

教育委員会5階会議室

生涯学習課からは田川統括次長、黒田参事、佐々木さん、サポーターは三役が参加。

年末の慌ただしい中、時間を割いていただき、会所跡地の保存と活用についての懇談を行い、市の方針や見通しをお伺いした。

生涯学習課としては、市の文化財としての指定は視野に入れている。指定後の活用に向けての取組みが大切なので、サポーター会議の活動にも期待すると言っていました。

その後、2月の文化財保護審議会で「平野屋新田会所 千石蔵跡・道具蔵跡・船着場跡」が大東市の指定文化財として答申され、3月の教育委員会で承認された。

《3》四会所交流事業

——又の刻印石出展と見学会——

四会所交流事業は2ヶ月ごとに会場を4会所持ち回りで行われている。代表者が集まって会議形式で情報交換と交流事業について話し合っている。

今年度は、4月と12月が大東市(平野屋会所)の当番であった。4月は歴史民俗資料館で行い、「野崎観音展」の観音像調査結果に関する展示を観てもらった。

また、八尾市「安中新田会所跡旧植田家住宅」のニュースレター『旧植田家だより』に「四会所だより」コーナーが設けられており、4会所持ち回りで「たより」を掲載させていただいている。平野屋新田会所市民サポーター会議も平野屋会所跡と樋門・水路調査の取組みを取り上げてもらった。

更に、「旧植田家住宅」の特別展で、4つの会所から展示品が出展され、平野屋会所からは「又の刻字境界石」が展示された。それに合わせて、サポーター会議の研修を兼ねて「安中新田会所跡旧植田家」の見学に行った。



安中新田会所跡旧植田家住宅展示場見学(11月22日)
上:展示中の「境界石」
下:新田絵図に見入る参加者

《4》平成30年度提案公募型委託事業

「提案型委託事業」の募集テーマに「平野屋新田会所跡」が登場

平成30年度の公募テーマに、それまでなかった平野屋新田会所跡の活用事業が入り「平野屋新田会所跡周辺の歴史遺産の活用事業」のテーマで公募が行われた。

そこで、私たちサポーター会議は、この大東市提案公募型委託事業に初めて応募することにし、「平野屋新田の水路調査とその活用事業…水路調査とマップ・映像化・シンポジウム開催…」で採択を得る事ができた。

「会所周辺の新田遺産」の価値と魅力を発掘し市内外に発信する

サポーター会議は、会所周辺の新田遺産の調査・魅力の発掘に集中し、その成果を発信することにより、平野屋新田会所跡と一体的に新田開発遺産を大東市の宝として発信して

いく計画を立てた。私たちは、その取組みが「平野屋新田会所跡」の整備と厚みのある活用につながることを願うものであった。

審査会からは「新田開発・平野屋新田会所と歴史遺産の魅力を、多くの地域住民に広く発信していただきたい。」とのコメントをいただいた。

提案公募型委託事業 3つの柱と取組み

- (1) 深野南新田水路関係(井路・樋門・古文書から分かる歴史など)の①調査を行い、②その成果を地図化。③それらをわかりやすくした「新田開発歴史発見水路マップ(仮称)」を作成し配布する。
- (2) 新田開発の歴史と平野屋新田会所や水路体系の魅力紹介ビデオを作成し上映する。
- (3) 研究者や地元関係者などと協働して、①水路シンポジウムと②パネル展示、③見学会を行う。

以上の、事業内容で、盛りだくさんなものとなった。

1 水路調査活動

初めての深野南新田・河内屋南新田の水路調査活動

谷川地域、平野屋地域、南新田地域の三つのチームに分かれて担当区域を調査し、全体でまとめる作業を進めた。

7 月に、市川秀之先生にお願いして水路や樋門の学習会をもち、基礎的なことを教えていただいた。

調査結果を地図化するためのベースにする地図を平成 29 年の地籍図とし、大阪産業大学建築環境デザイン学科の松本裕研究室の協力を得て作成した。

それを基本にして、①明治 19 年の水路図をベース地図に移し替えていく作業と、②現在の水路の状況を調査しベース地図に記入していく作業を行った。(17 ページ資料《2》参照)

作業を進める過程で、新田内の水路と水の流れをつかむためには、新田に流れ来る水路や川の上流に向かっての調査の必要性が分かり、ほぼすべての調査を行った。

3 地区の水路調査は、享保年間の深野南新田・河内屋南新田の水路絵図と明治 17 年の『大阪府地誌』、明治 19 年の「字切図」、近年発行された『平野屋会所文書』などを参考にしつつ行った。古い水路は、地籍図などを基に位置の特定をした。深野池に出来た新田水路の初めての本格的な調査となった。

① 南新田地区水路調査報告

— その展開と展望 —

今年度は「大東市提案公募型委託事業」として、水路調査、現地見学会が活動の中心となりました。現地におもむき、地図に記入する地道な作業と現地見学会を通して1月のシンポジウムを開くことが出来ました。



9月18日 いいもりプラザでのまとめ作業

毎月の定例会には出席するものの参加できない活動もありましたが、毎回、新しい発見があり、実り多い一年となりました。

これまでの活動と用意していただいた資料を見て私なりの思いを記して報告とします。

大和川の付け替え、その後の新田開発はどのように行われてきたのでしょうか？ 地震、凶作、洪水などの自然災害とどう向き合ってきたのでしょうか？ 人々は水路を整え、樋門を作りました。時には水争いもあったと古文書に記されています。その中であって新田会所はどのような立場にあり役割を果たしてきたのでしょうか？ 今、私たちは水路や樋門、「会所文書」を通して、垣間見たり、想像することは出来ます。詳しくは「平野屋新田会所文書」に記されているのでしょうか。閲覧できたとしてもよくわからないのが実状です。

太古の昔の海の様子、大和川の付け替え新田開発の様子が「ドラマ」や「ドキュメンタリー」になればと夢のようなことを考えてみます。「新日本風土記」「歴史ヒストリア」の中で大東市(北河内)が紹介されれば「新田会所」もより身近になると思います。

今、できることは、いただいた資料をじっくりと読み返すことです。いつか、「新田会所文書」を紐解こう！ なんて集まりができれば素敵だと思いませんか。

② 平野屋・平野屋新町区水路調査報告

— 鍋田川の付替と水路の変化 —

古堤街道付近から北側、銭屋川から東側を調べた。昭和の中頃までは、平野屋会所屋敷地の東横を南北に通る道路の場所が旧鍋田川の流路であった。現在のように鍋田川の流路が付け替えられると、東から来る川や水路が断ち切れ水の流れ方が変わった。

更に、都市化が進む中で江戸時代からの水路(井路)が暗渠になったり消滅していったことが確かめられた。それに伴いそれまで重要な役目を負っていた「けんと樋」や「谷川」(現鍋田川)に在った樋が無くなったことも確かめられた。

「昭和初期の水路絵図」の中に「切所」と水を被った範囲が記されていることから、この地区にあった『平野屋会所文書』に出てくる「北ままだ」「中ままだ」の場所が、ほぼ確認できた。現在もその場所が低い土地の状態になっている。

また、「廿田川」「寺川中川」「長農川」「鍋田川」「南川」などの流れをたどり上流部の確認を進めた。しかし、上流部の山側は、阪奈道路建設によって流れが切断され、流路が変化していた。大雨時に阪奈道路の崖崩れが頻発するのは、水の流れが切られ変化したことも理由として考えられるのかもしれない。

調査の過程で、地区に古くから住む方々に 40～50 年前の様子をお聞きすることが出来た。戦前はもとより昭和30年代前の話を記録しておく必要性を強く感じた。

③ 谷川地区水路調査報告

— 深野南新田谷川地区と都市化 —

深野南新田の中で最も都市化の波が押し寄せて来ている谷川地区の調査は、明治 19 年の字切図を基に「寝屋川」「鍋田川」「新堀川」「銭屋川」に囲まれた広範囲に跨る地域で行った。

昭和 58 年頃～平成 10 年頃にかけて、井路(水路)が暗渠化されたり、埋立てられて道路となっていたところがある。谷川地区内の鍋田川の水は、東の山側の水を所々で合流しながら流れを変えることもなく、現在も西の寝屋川に落とされている。

新堀川から南は、阪奈道路が出来るまでは道がなかった。しかし水路はあり、現在は暗渠化されたり、埋立てられたりと形を変えているが、明治 19 年の字切図にある水路が今でも確認できた。この水路は農地改革の数年後まで、田舟を使い高松家に年貢を納める為の水路でもあった。

「平野屋会所文書」・「明治 17 年大阪府地誌河内国第十四編讃良郡」等の資料を参考に 18 世紀の「新田開発直後の絵図」に遡ると、古代からの河川「寝屋川」・「鍋田川(旧谷川)」と新田開発直後に掘られた井路(水路)の「新堀川(二間井路、明治にはぬの割井路)」・「銭屋川(四間井路)」は名称を変えながらも現存している。また河川と井路の接点には樋門が造られ、当初より「用水・悪水」の処理に重要な役目を担っていた。地元の方々の聞き取りへの親切な対応に、感謝と共に私達に課せられた「後世へ伝える役目」を強く感じた。

2 水路地図作成

今年度の提案型委託事業として樋門と水路調査を行い、地図化と「マップ」の作成を行った。中間報告として、水路と水の流れをまとめ、シンポジウムや展示会で報告した。

この調査で、これまで、なんとなくは捉えられていたが確実ではなかったことがよりはっきりしてきた。

現地調査と古い絵図や地籍図、平野屋新田会所文書、地域の方々からの聞き取りなどを総合するかたちでまとめた。作成した「まとめ」の地図は「資料 2」)

3 DVD 作成・パネル展示

① 平野屋新田会所と周辺遺産紹介 DVD 作成

平野屋新田会所跡と周辺の水路や樋門を紹介し、調査活動で得られた水路や樋門の歴史と用水の仕組みなどを盛り込んだ 9 分 30 秒の DVD を 50 部作った。

パワーポイントのアニメーションと一部ビデオ動画を取り入れた。技術的にも内容においても まだ未熟なものであるが、新田会所遺跡と周辺遺産の広報活動の一助として使



DVDタイトル画面

っていきたい。

取材活動で、南新田・元町(旧河内屋南新田)だんじり保存会の代表を始め多くの地元の方々の協力を頂けたことも、大きな財産になった。



DVD画面(会所周辺遺産群)

②「平野屋新田会所跡の周辺遺産」パネル展示

会場:大東市生涯学習センターアクロス 3 階ギャラリー

期日:平成 31 年 1 月 26 日～31 日

シンポジウムの関連事業として 1 月 26 日から展示を行った。展示タイトルは「平野屋新田会所跡の周辺遺産」でおよそ 30 枚のパネルを展示した。入り口正面に大東市全体の地図と深野池の大型パネル。右に新田開発と平野屋新田会所跡の紹介、左に水路調査関係の絵図、中に入った正面に周辺遺産の樋門や水路・石造物の写真を展示した。机にチラシ、水路・樋門紹介チラシを置いた。これらのチラシは好評のためで追加を行った。



左:樋門などの写真展示と宣伝物の様子



展示全景(入り口正面)

4 講座・見学会・シンポジウム

1 月 26 日のシンポジウムに至る行事として 3 回の講座と見学会を行った。

① 第一回講座・現地見学会

会場:(講座)南新田公民館

(見学会)南新田方面

期日:10 月 13 日(土) 午後 1 時半～4 時

講師:大東市都市計画審議会等委員松本裕先生(大阪産業大学)

第 1 回目は、大阪産業大学の松本裕先生より水路の現地調査と地図のデータ化について説明があり、その後深野南新田の水源2カ所を見学しまちづくりの可能性を一緒に考えました。

約30人余りの参加があり、水路地図のデータ化により、何がみえてきたのか、他市との比較・関連性も含め、大東市にとって「歴史と水路のまち、治水・利水に取り組み続けたまち大東市」について発信できた。今後の都市景観・都市計画のあり方を考える場として一定の成果を得られ、地元

の人々の協力のもとで開催できたことは非常に有意義なことであった。



「銭屋川ビオトープ協議会」より銭屋川(ソの割井路)上流部の説明を聞く参加者



上:松本裕先生の講義

下:落合橋下伏越樋の見学

② 第二回講座・現地見学会

会場:(講座)平野屋公民館

(見学会)平野屋方面

期日:11 月 18 日 午後 1 時半～4 時

講師:大東市史編纂委員岡村喜史先生

第2回目は、市史編纂委員として『平野屋新田会所文書』の調査に尽力された岡村喜史先生より、用水をめぐる問題が報告された。

「会所文書」の中にある地元中垣内浜にあった樋などの水をめぐる出来事や享保 20 年(1735)の大洪水と「救い米」などの当時の対策についてもお話いただけた。

現地見学会では、地元の方が「けんと樋」などのことを話してくれたのが有り難かった。



上:岡村喜史先生の講義

下:平野屋公民館前から見学会に出る様子

③ 第三回講座・現地見学会

会場:(講座)市民会館
(見学会)谷川方面

期日:12月9日(日) 午後1時半～4時半

講師:大東市文化財保護審議会委員市川秀之先生(滋賀県立大学)

大東市文化財保護審議会委員の市川秀之先生を招き、深野南新田北部(谷川地区)の水路と水利を探りながら新田の中で最も開発された地域、谷川地区の水路及び水の流しが、どの様に現代社会の中で移り変わり維持されているのかを明治19年の地図に基づきながらガイドした。谷川地区の「用水・悪水」は、すべて「現銭屋川」「現鍋田川」「寝屋川」「現新堀川」等に依存していた。

各河川や井路(水路)の接点に設置された樋門と井路の役目は生活環境により大きく変遷していることが確かめられた。浸水から親水へと先人達が切り開いた地は参加者には興味を抱くもので有り1月26日のシンポジウムに向けて力強さを感じた。



上:市川秀之先生講義
下:かみなり樋門の見学

④ シンポジウム

会場:大東市立生涯学習センターアクロス4階

期日:平成31年1月26日(土) 午後1時30分～4時30分

平野屋新田会所跡周辺には新田開発の遺産(新田遺産)である水路や樋門、石造物などが今でも多数残されている。また、近年「平野屋新田会所文書」の解読によって水路や樋門にまつわる歴史や人々の暮らしが明らかになってきた。平野屋新田会所市民サポーター会議はこれまで行ってきた水路や樋門の調査成果を報告し、新田遺産を今後のまちづくりに活かしていく為に、このシンポジウムを開催し、約100人近い参加者を得て熱心に耳を傾けていただいた。

シンポジウムは3部構成で行われた。

第1部は「水路調査の取り組み」として市民サポーターの中村義之が報告した。第2部はその報告を受けて専門家である次の三人の先生方からご講演いただいた。

○ 基調講演「地図化を通じた都市空間把握とまちづくりへの展開」

松本 裕さん(大阪産業大学 准教授)

○ 「歴史から見える水路・樋門にまつわる出来事」

岡村 喜史さん(大東市史編纂委員)

○ 「水路・樋門を活かしたまちづくり」

市川 秀之さん(滋賀県立大学 教授)

そして第3部はパネルディスカッション「平野屋新田会所跡周辺の歴史遺産の活用について」と題し、3人の先生方をはじめ、黒田淳さん(大東市教育委員会)と市民サポーターの水永八十生が加わり、将来の整備活用に向けて、様々な角度から意見交換がなされた。

平野屋新田会所市民サポーター会議では、過去最大のイベントとなり意義ある催事となった。今後はこの成果をどう生かして行くかが課題となる。



会場からの発言



後半のシンポジウムの様子

5 案内マップ作成

水路調査や地図化を基に「平野屋新田会所跡周辺の水路・樋門・石造物案内マップ」を作成し配布した。A4大 8 面観音折りのパンフレットで、水路や樋門をまとめて紹介する初めてのマップとなった。市内 10 カ所の公共施設を始め、各地域から他市へ配布範囲が広がり良く手にしていただけている。

マップは大阪産業大学建築環境デザイン学科松本裕研究室に協力を得て作成できたもので、田圃と水路をイメージした表紙は、深野池の新田開発と水路と樋門の残る大東市のイメージを印象づける明るく爽やかなデザインである。

大和川の付け替え、新田開発、平野屋新田会所、水路や樋門、水路地図資料が簡潔に掲載されており、散策モデルコースやコース上の 30 カ所の写真も掲載されていて学習と散策用マップとして使っていただけるものとなっている。



「案内マップ」の表紙と一部(散策マップ・散策モデルコース・コース上のポイント写真)

《2》 明治 19 年切図写し水路地図



「案内マップ」（「新田の歴史と遺産 平野屋新田会所周辺の水路・樋門・石造物」）の掲載地図



12 号水路と撮影の様子

(縮刷版のため もとのかわら版と文字などが一部変わっています)



平野屋新田会所
市民サポーター会議
2018年9月 発行
第三号
発行責任者 水永八十生
編集 中西 昭治

水路 樋門

そのまま歴史に残したい

「南新田せせらぎ ふれあいの径」の水
路を掃除しているお姿をよく見かける安川
博美さん(80)にお聞きしました。安川さ
んはこの水路が出来た直後区長として地区
のお仕事もされ、その後も水路を見守って
こられた方です。

南新田在住
安川 博美さん

― せせらぎの径水路の
清掃を地区の皆さんとや
られているお姿をよく見
かけますが

・十四、五年前、市から
水路を埋めて下水管を通し
てその上に道をつくる話が
出た時、地区で話して、通
る人びとが和やかに触れあ
える道として、下水管の上
に水を流すのなら認めるこ
とになり完成に至りました。
その後区長になったので
市に恩返ししたいという思
いもあり、地区の皆さんと
続けてきました。

― 近年は水路を埋めて
しまつて一般的になつ
ていますが、南新田地区



の皆さんは水の流れを残
すことにしたんですね。

見守り手入れしてきた「南新田せせらぎ ふれあいの径」
に立つ、安川博美さん

・その頃は、市は水路を積
極的に残し整備しようとし
ていた。地区もそれに応じ
ただけやけど、地区の意思
は水の流れる水路を残すと
いうことでした。

― 掃除や維持管理は大
変でしょうね。

・地区で三、六、七、九、
十二の月の年五回水路の掃
除や草取りをやっている。
通る人が喜んでくれているし、

水草や雑草がすぐ出るので
それ以外でもやっています。
通る人が喜んでくれている
のが励みになりますね。

― この水路は三百年前
の新田開拓時から恩智川
の水を取り入れ北に流す
重要なものでしたが、石
造りの樋門も残ってます
ね。

・よく「悪水井路」と言わ
れますが、「悪水」といつ
ても汚い水が流れていたわ
けではなくて役に立ってい
た訳で、昔はナマスやもろ
こ、台湾ドジョウなどいろ
いろな魚がぎょうさんいま
したよ。

記憶では、水を恩智川に
落とすことはあるが水は入
れていない。恩智川が上流
の工場廃液などで汚れて使
えなかった。用水は寝屋川
からひいた。昔は、元町の
人が大阪の城東から肥料の
肥を船に積んで恩智川から
この水路にも肥舟を入れて
いたようだ。

樋門は掘り上げて、近く
に移して置いてく話があっ

たが、地区では元もとの場
所にあつてこそ意味がある
もんやからとそのまま残し
たんや。落合橋下の伏せ越
も埋めておけば、また歴史
の役に立つので埋めたてた
ままにしておくことにした。

「間違ったことは話せない
ので」と言いつつお話して
頂きました。今の風潮は、
すぐ水路を埋めたり工口いも
のを無くしたりするが「歴
史の天敵ですな」との言葉
にはっとさせられました。
奥様も朝早いうちに水路の
草花の世話なされてきた
が足を痛めたのでやれなく
なつてしまったとのことだ
した。水路を埋めて道にす
るだけではなく、歴史のあ
る水の流れも残して、人々
の生活に潤いをもたらす道
を選択した南新田地区の人々
の心意気を感じることがで
きました。最後に、無理や
りお願いして水路の前で写
真を写させていただきました。

水永八十生

市有地の史跡整備を早く

蓬田 和美



御供田在住
蓬田和美さん

四月から会員になりました。沢山の資料をいただき熱心な討議をお聞きしてききました。平野屋新田会所の保存運動についてはかなり早くから知っていましたし、新しい家がどんどん建ちすつかり様変わりした現実には本当に残念な気持ちでした。大東市が買い取った土蔵跡地の草刈りに参加しました時、土蔵への石造りの坂等の説明をお聞きして、ぜひ整備して広大な会所の存在を後世に伝えるものとして残していただきたいと切に思いました。

実は私の実家は柏原市で、近くの治水記念公園はかなり前に行き、中甚兵衛翁の功績等を感じて見て知っておりました。その時は自身が住む大東市と深い関係がある事に思いが及びませんでした。また四十年前に大東市に引っ越して来た頃沢山あった小さな川がそう

だったのかと、恥ずかしながら気がつきました。

大和川の付け替えという大事業によって大東市の平野部の半分を占めていた深野池が上りり田畑に変わっていったことは歴史的に大したことですが、今その田畑がほとんど宅地に変わって今日の大東市となったのですから皆がその歴史を知っておかねばと思います。

活動に参加してわずか四カ月にしかならないのに、その中で大和川のつけ替え工事調べ、太古から現代の大東市の成り立ちまでや大東市がいに低い土地であることをしり、その為の長い苦労があったことを勉強す

私は昭和四十九年に平野屋新田会所近くの泉町の住民になりました。当時家は家の周辺にも沢山の空き地がありました。今思えば、その空き地は平野屋新田会所管理下の田畑だったのではな

思い出す ありし日の 平野屋会所の風景

中下 志津子



泉町 在住
中下 志津子さん

表玄関（表長屋門）前の広場にはセリが茂り西側を流れる銭屋川沿いから見える沢山の木々や竹藪、その中に見え隠れする土蔵。夕暮れに鳥達が羽を休めに帰る竹藪、竹藪の横には大きな銀杏の木が二本、その下に真っ赤な彼岸花。春は銭屋川の両岸に菜の花。会所がなくなりこの景色もすべて失わ

ています。壊したものは元には戻りません。しかしその片隅に確保してある市の所有地で、大東市の原点である平野屋新田会所があった事、会所が果たした役割を後世に伝えて行く事は充分出来ると思います。早く活用されることを願っています。

れました。この大きなお屋敷が平野屋新田会所で大東市の発展に大きな役割を果たした場所である事を知るまでには随分長い年月を要しました。保存会にも参加しました。保存を願う人々の願いは叶わず取り壊しを聞いた時は愕然としました。取り壊し後の見学会にも行きました。次々と住宅が建ち、沢山の人が入居して賑やかになったけれど私の心はあの大きなお屋敷と四十年前の光景が今も頭に残っています。壊したものは元には戻りません。しかしその片隅に確保してある市の所有地で、大東市の原点である平野屋新田会所があった事、会所が果たした役割を後世に伝えて行く事は充分出来ると思います。早く活用されることを願っています。

平野屋新田 私の想い

平野屋新田会所 市民サポーター 会議

平野屋新田会所市民サポーター会議は、現在市が保有する四七〇平方メートルの平野屋新田会所跡地をそのメモリアルとして早期に保存活用していくため、市民の理解と支援の輪を広げていきながら活動している市民組織です。

平野屋新田会所 市民サポーター会議

二〇一八年九月十一日発行
事務局
大東市教育委員会
生涯学習課
大東市曙町四番六号
TEL 〇七七八七〇九一〇五

一緒に活動しませんか

- 毎月1回定例会議
第2土曜日10時～12時
- 市民会館5階 教育委員会会議室
- 年会費 1000円
- お問い合わせ 事務局
大東市教育委員会 生涯学習課

「かわら版三号」は平野屋の水路・樋門についての特集になりました。更にこの調査、谷川・平野屋・南新田のグループによって今たけなわです。来春予定している「シンポジウム」を期待ください。▼今号発行に関わったメンバーは 河村共之 中西昭治 林田恵子 水永八十生でした 中西

編集後記

いまに残る 平野川 水路と樋門の



① 谷川一丁目
所在の樋門
(安政6年
1859年)
谷川地区に水を送る
重要な樋門。この付
近にあった別の樋の
傘石が谷川公民館前
に保存されている。



② かみなり樋門
(嘉永4年 1851年)
樋門の構造がわかる貴重な存在。
大雨の時は、下流の地域を守る
ため、雷が落ち大雨が降るなか
でも樋門を閉じに走った、との
ことだ。



④ 三反物の樋 (弘化2年 1845)
新田の要にあたる地点の樋門。現在はシー
トで覆われている。



⑧ 待ち樋 (年代不詳)
この樋で水路の水位を調整し
ていた。



⑦ 落合橋下伏樋

(安政3年 1856)

河内屋南新田からの水路と「ソの
割井路」と呼ばれていた今の銭屋
川とを結ぶ樋で、大川と立体交差
していた。今も土手下深くに傘石
がのそいている。左はその概意図。

新田 ものがたり

三百年前大和川が付け替えられ、深野池が広大な新田となると、そのなかには縦横に走る水路がつくられました。その水路の多くが、所によっては今でものどかな田園風景をかたちづくり、昔の面影を残しています。特にたくさんのお堀門は、設置された姿そのまま、時代の物語を私たちに語りかけています。この図は江戸、明治、昭和初期のいくつかの地図・水路図を参考にして描いた、平野屋新田内の幹線水路、点在する主な堀門の概略図です。

水永八十生



③どんぼの伏越樋 (年号不詳)

寺川地区から流れてくる水が集まり、鍋田川(旧)の下を立体交差し銭屋川につながっている。



落合橋⑦からみた

現在の銭屋川

地元の人たちの努力で、伏越樋は地下に残されている (1面参照)

十二号水路
(せせらぎの径)
古くは四間井路
と言われていた。
恩智川の水を北の
田畑に送る幹線水
路であったが、恩
智川の水質悪化に
より昭和三〇年代
初めに樋門が閉じ
られた(1面参照)



平野屋会所横の銭屋川



⑤満島樋

(弘化5年 1848年)

当初は恩智川の水を取り入れ、隣接する深野新田全域に送った重要樋門であった。

⑥河内屋南新田に残る水路

河内屋南新田は新田開発後すぐに平野屋に譲渡され、深野南新田と共に平野屋新田として秋祭りなどの行事も一緒に行われることとなった。



おわりに

私たち平野屋新田会所市民サポーター会議は、平成30年度大東市提案型公募委託事業の提案理由として、「新田開発のまち、新田会所遺跡や水路・樋門が残るまち、水と格闘し水を治めてきたまち、その歴史を伝える古文書のあるまち大東市」を掲げました。そして、水路調査と平野屋新田会所跡周辺の水路や樋門、石造物の紹介と案内マップ作りを行い、平野屋会所跡の保存と活用の道を探る活動を続けてきました。

そのような中、2月の大東市文化財保護審議会と3月の教育委員会の審議を経て深野池新田開発関連文化財群の一つとして「平野屋新田会所千石蔵跡・道具蔵跡・船着場跡」が大東市の指定史跡となりました。このことは、本市だけでなく大阪における新田開発の歴史を再認識する画期的な出来事です。また、市民と共に保存活用のみちを探り、大東市の宝として広く発信できるのかが問われることにもなりました。私たち平野屋新田会所市民サポーター会議も活動の新たな段階に入ることを自覚して努力していく所存です。

この報告書を手にしていただいた皆様のご意見とサポーター会議へのご関心ご声援を頂けましたら幸いです。

最後になりましたが、水路調査やインタビューなどに快く応じて頂き、励ましの声をかけていただきました地元の皆様に篤く御礼申し上げます。また、サポーター会議の活動をご指導頂きました諸先生方と事務局の皆さまに心より御礼申し上げます。

ありがとうございました。

平成31年3月

平野屋新田会所市民サポーター会議一同

平成30年度 平野屋新田会所市民サポーター会議会員名簿

今井 享	下地 幸子	中村 義之
河村 共之	地引 道子	林田 恵子
木岡 陽子	世良 悦子	福本 勉
木原 哲也	高見 庸子	藤井 俊悟
小林 希子	豊芦 勝子	水永八十生
蓬田 和美	中下志津子	宮本 喬
柴田 俊雄	中西 昭治	矢谷 敬子

平野屋新田会所市民サポーター会議活動報告書

・平成31年3月31日発行

・発行 平野屋新田会所市民サポーター会議
事務局 大東市教育委員会生涯学習課



〒 574-0076 大東市曙町4番6号

☎ 072-870-9105